

地震対策

地震発生!
そんなときどうする

揺れやすさマップ

地震発生時の時間経過別行動マニュアル(室内にいた場合)

地震発生

最初の大きな揺れは約1分間

- まず、身の安全を確保(手近な座布団などで頭を保護)
- すばやく火の確認 ガスの元栓、コンセント、ストーブ
- 室内に居ることが危険だと判断した場合、すばやく屋外の安全な場所に一時避難する

揺れがおさまったら

- 火元を確認 火が出たら、落ちていて初期消火。※初期消火の限界は炎が天井に燃え移る前まで。
- 家族の安全を確認 倒れた家具の下敷きになっていないかを確認
- 靴をはく 家の中はガラスの破片が散乱。靴や厚手のスリッパをはく
- 避難するときは、屋根がわら・ブロック塀・自動販売機等に注意

みんなの無事を確認 火災の発生を防ぐ

- 隣近所に声をかけよう
- 隣近所で助け合う 要配慮者の安全確保
 - 行方不明者はいないか ●ケガ人はいないか
- 出火防止初期消火
- 初期消火 ●消火器を使う
 - 座布団、毛布、大きめのタオル等の活用
 - 漏電・ガス漏れに注意 ガスの元栓・電気のブレーカーを切る
 - 余震に注意
 - バケツリレー 風呂の水はため置きをしておく
(ただし、乳幼児がいる家庭では浴槽への転落防止のため工夫しましょう)

ラジオなどで正しい情報を

- 大声で知らせる ●救出・救護 ●防災機関、自主防災組織の情報を確認
- デマにまどわされないように ●避難時に車は原則として使用しない
- 電話は緊急連絡を優先する

協力して消火活動、救出・救護活動を

- 水、食料は蓄えているものでまかなう 最低でも3日間、できれば1週間分備蓄しておく
- 災害情報・被害情報の収集 ●無理はやめよう ●風呂水をため置きしておく(特に高層マンション居住者等)
- 助け合いの心が大切 ●こわれた家に入らない

1~2分

3分

5分

10分
数時間

3日

屋内にいた場合

家の中

- 揺れを感じたら、身の安全を確保し、すばやく屋外の安全な場所へ避難する。
- 火の確認はすみやかに(コンセントやガスの元栓の処置も忘れずに)。
- 乳幼児や病人、高齢者など要配慮者、避難行動要支援者の安全を確保する。
- 裸足で歩き回らない(ガラスの破片などでケガをする)。

デパート・スーパー

- カバンなどで頭を保護し、ショーウィンドウや商品などから離れる。柱や壁ぎわに身を寄せ、係員の指示を聞き、落ち着いた行動をとる。

劇場・ホール

- カバンなどで頭を保護し、座席の間に身を隠し、係員の指示を聞く。あわてず冷静な行動をとる。

集合住宅

- ドアや窓を開けて避難口を確保する。
- 避難にエレベータは絶対使わない。
- 炎と煙に巻き込まれないように階段を使って避難する。

屋外にいた場合

路上

- その場に立ち止まらず、周りの危険物に注意し、窓ガラス、看板などの落下物から頭をカバンなどで保護して、空き地や公園などに避難する。
- 近くに空き地などのないときは、周囲の状況を冷静に判断して、建物から離れた安全性の高い場所へ移動する。
- ブロック塀や自動販売機などには近づかない。
- 倒れそうな電柱や垂れ下がった電線に注意する。

海岸付近

- 高台へ避難し津波情報をよく聞く。注意報・警報が解除されるまでは海岸に近づかない。

車を運転中

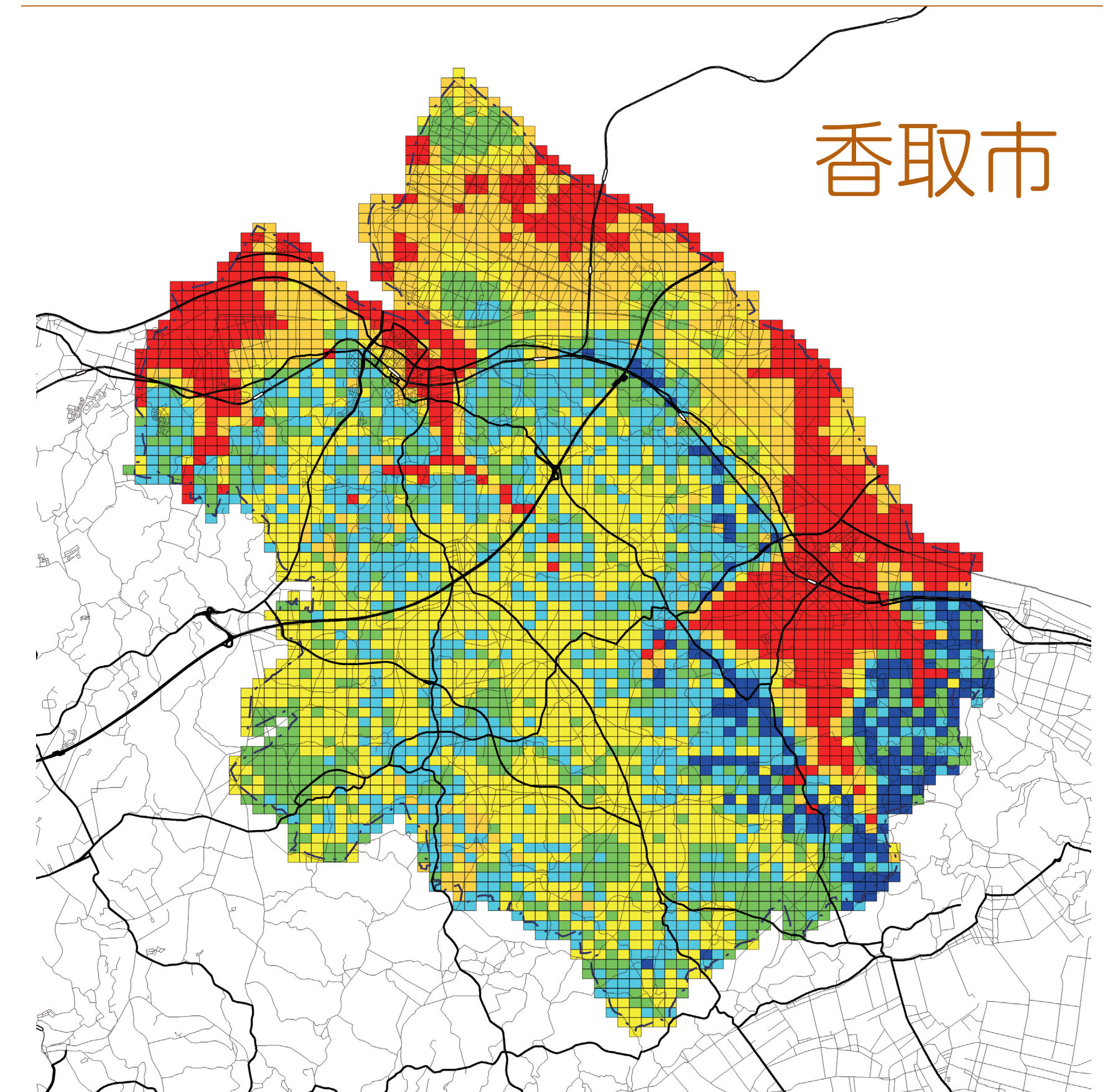
- ハンドルをしっかりと握り、徐々にスピードを落とし、緊急車両等の通行スペースを確保し、道路の左側に止め、エンジンを切る。
- 揺れがおさまるまで冷静に周囲の状況を確認して、カーラジオで情報を収集する。
- 避難が必要なときは、キーはつけたまま、ドアロックもしない。車検証などの貴重品を忘れずに持ち出し、徒歩で避難する。

電車などの車内

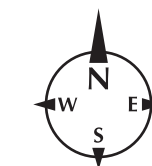
- つり革や手すりに両手でしっかりつかまる。
- 途中で止まっても、非常コックを開けて勝手に車外へ出たり、窓から飛び降りたりしない。
- 乗務員の指示に従って落ち着いた行動をとる。

地震による地表の揺れは、「地震の規模(マグニチュード)」、「震源からの距離」、「表層地盤」の3つの条件により違いが現れます。一般的に、マグニチュードが大きいほど、また震源から近いほど地震による揺れは強くなりますが、地表地盤の状況によっても左右され、地表地盤がやわらかい場所では、かたい場所に比べて地表での揺れは大きくなります。揺れやすさマップは、各地点で同じ強さの地震動が伝わってきた時、相対的に揺れやすいかを図化したものです。

工学的基盤(建築物の杭基礎の支持層となる、ある程度の硬さを持った地盤のこと)から地表までの間にどれだけ揺れが大きくなるのかを相対的に示したのですが、250m四方のメッシュの地盤の状況をボーリングデータから推定して計算しており、データ量に偏りがあります。揺れにくい区域であっても、直ちに安全であることを示したものではありません。



出典:「平成28年3月千葉県作成 平成26年、27年度 千葉県地震被害想定調査」より



0 2 4 8km

揺れにくい ← → 揺れやすい